

令和5年12月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和5年12月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

八戸市のボランティア団体「八戸せんべい汁研究所」の設立20周年記念イベントが11月25日に三日町のマチニワで行われました。

八戸せんべい汁研究所は、東北新幹線開業を契機に、郷土料理のせんべい汁を全国に発信して地域活性化につなげようと2003年11月12日に発足し、ご当地グルメによるまちおこしの祭典「B-1グランプリ」を仕掛け、2012年の第7回大会では最高賞のゴールドグランプリを獲得しました。

せんべい汁を全国区へ押し上げるだけでなく、飲食店スタッフを対象にした「おもてなしアカデミー」や小中学生向けの「まちおこし出前講座」なども展開し、食を通じたまちおこしに取り組んでいます。

セレモニー後は20周年記念の特製せんべいを添えた八戸せんべい汁が振る舞われ、会場に駆け付けた市民と関係者が節目を祝いました。

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸12月号 レポート

令和5年11月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸市美術館、十和田市現代美術館など県内5館 アートフェス来春始動
(2)	八戸前沖さば大使招きセミナー ブランド戦略と養殖考える
(3)	岩波書店社長 坂本さん 市が八戸特派大使委嘱
(4)	八戸十和田トレイル設定へ 環境省、来秋の試験運用目指す
(5)	起業支援「8サポmeets」始動 八戸市 交流機能強化、人材発掘
(6)	窓口業務デジタル化へ 八戸市、25年度導入目指す

【産業】

記事	概要
(7)	コメ専用列車 全農などが八戸ー大阪間 定期運行開始
(8)	駅弁製造 吉田屋（八戸）営業再開
(9)	種差に食と観光の拠点「WHARF TANECHI」オープン ACプロモート（八戸）運営
(10)	八戸の食や名所PR VISITはちのへ
(11)	八戸にサテライトオフィス 市の誘致事業で初開設
(12)	八戸ニューシティホテル 虎鯨棒すし 全国にファン、通販も盛況

【地域】

記事	概要
(13)	東京・上野公園で「青森人の祭典」開催 食や郷土芸能PR
(14)	事業構想大学院大学プログラム 市中心街活性化へ受講者がアイデア
(15)	全国朝市サミット 来年10月に八戸で開催
(16)	八戸特派大使 桂小文治さん 児童に落語の魅力紹介
(17)	八戸水産高漁獲のメバチマグロ 都内4店舗で提供

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	「土偶を読むを読む」話題に 是川縄文館学芸員 小久保さんも参加
(19)	八戸リレーマラソン つなぐたすき、つながる心
(20)	八戸・南郷で音楽フェス開催 ブラジル音楽界の巨匠 エルメート来八

【行政】

記事	
(1)	<p>八戸市美術館、十和田市現代美術館など県内5館 アートフェス来春始動</p> <p>八戸市美術館や青森県立美術館、十和田市現代美術館、青森公立大国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館の県内五つの美術館が参加するプロジェクト「AOMORI GOKAN アートフェス2024」が2024年4月から9月まで展開される。各館の学芸員が連携し、それぞれの施設の特徴を生かした展覧会やプログラムを企画するほか、美術館を起点にした県内周遊プランも造成する。地方の美術館が連携して同様の取り組みを行うのは全国的にも珍しいという。八戸市美術館では、八戸を拠点とするアーティストが来館者と共に芸術を楽しむプロジェクトを計画している。アートへの関心を醸成するとともに、青森県の自然や食文化も県内外に広く発信する。</p>
(2)	<p>八戸前沖さば大使招きセミナー ブランド戦略と養殖考える</p> <p>八戸市が取り組む「八戸水産アカデミー」と八戸前沖さばブランド推進協議会は11月9日、「鯖のブランド戦略と養殖を考えるセミナー」を開き、八戸前沖さば大使で、大阪府豊中市を拠点に「サバ一筋」事業を展開する右田孝宣氏を講師として招いた。右田氏は「サバ博士」を名乗り、これまでもサバ寿司専門店「鯖や」やとろさば料理専門店「SABAR」など、サバ食文化の普及に尽力している。セミナーに参加した水産関係者らは、一般消費者が手をのばしづらいがニーズは高いとする生食普及や、近年の不漁に対しては養殖が食文化の維持に効果的であることなどの先進事例について学んだ。</p>
(3)	<p>岩波書店社長 坂本さん 市が八戸特派大使委嘱</p> <p>八戸市は、岩波書店代表取締役社長の坂本政謙さん（同市出身・横浜市在住）に八戸特派大使を委嘱した。坂本さんは八戸市立鮫中、県立八戸高、立教大学卒業。大学卒業後に石油会社勤務を経て、岩波書店に入社。佐藤正午さんの直木賞受賞作「月の満ち欠け」の編集を担当するなど2021年6月から現職に就いている。坂本さんは「出版社の人間なので、本のまちということであれば協力できると思う」と活動の抱負を述べた。</p>
(4)	<p>八戸十和田トレイル設定へ 環境省、来秋の試験運用目指す</p> <p>環境省は2024年秋ごろをめどに、八戸駅と十和田湖をつなぐ「八戸十和田トレイル（仮称）」の試験的な運用を目指している。十和田八幡平国立公園で取り組みが進む「国立公園満喫プロジェクト」の一環で、旅行者の滞在時間拡大や交流機会の増加による沿線の活性化が目的。21年度から同省や関係自治体などが連絡会を組織してルート開発などを検討し、新幹線が発着する八戸駅と、代表的な観光地・十和田湖との間を数日間かけて歩く約120キロのモデルコースを作った。十和田八幡平国立公園と三陸復興国立公園の連携も視野に入れる。</p>
(5)	<p>起業支援「8サポmeets」始動 八戸市 交流機能強化、人材発掘</p> <p>地域の経済界で活躍する人材の積極的な発掘に向け、八戸市が新たに展開する起業支援プラットフォーム「8サポmeets（ミーツ）」が11月17日、本格始動した。事業は市が八戸商工会議所に運営を委託する「はちのへ創業・事業承継サポートセンター（8サポ）」の機能を強化したもの。交流基盤となる三つのコミュニティ「学生起業チャレンジコミュニティ」「スモールビジネスコミュニティ」「新ビジネス創出コミュニティ」を設け、情報交換や交流などを通して起業を後押しする。この日は、起業希望者・起業予備軍を対象にした「スモールビジネスコミュニティ」を対象に、先輩起業家の実践経験から学ぶトークイベントを初めて開催した。今後もトークやワークショップなどを通し、関心がある参加者を増やしていく考え。</p>

	窓口業務デジタル化へ 八戸市、25年度導入目指す
(6)	八戸市は本年度、デジタルを最大限に活用した窓口業務改革に乗り出す。転入や証明発行などのオンライン申請を可能とし、手続き時間の短縮や窓口移動回数の削減につなげて、市民サービスの向上と業務効率化を図る。窓口業務改革として、「書かない」「持たない」「回らない」を実現するワンストップの窓口の実施や窓口業務支援システムの導入などに取り組む。デジタル庁の窓口BPR（業務改革）アドバイザー派遣事業を活用し、取り組みを加速させながら2025年度の本格導入を目指す。

【産業】

記事	概要
(7)	コメ専用列車 全農などが八戸ー大阪間 定期運行開始 JR貨物やJA全農などは11月5日、八戸ー大阪間でコメ専用貨物列車「全農号」の定期運行を開始した。「2024年問題」に対応するため、トラックから鉄道に輸送を転換する「モーダルシフト」を通じ、コメの産地である東北、新潟、北陸と、消費地の東海、西日本を結ぶ。初列車は11月5日夜に八戸貨物駅を出発し、秋田、新潟市、金沢などの各駅で積み込みを行い6日に百済貨物ターミナル駅（大阪市）までコンテナ100基分（約500トン）のコメを輸送した。産地と消費地の輸送ルートを確認し、コメの安定供給に努める。
(8)	駅弁製造 吉田屋（八戸） 営業再開 全国的な食中毒事案を起こした八戸市の駅弁製造業者「吉田屋」は、営業禁止処分が解かれ、11月6日に駅弁製造を再開した。同社製造の駅弁が原因の食中毒は9月16、17日に発生。駅弁を食べ症状を訴えた患者は29都道府県計554人に上った。商品は東北新幹線の八戸、新青森、盛岡の3駅にある売店に約50日ぶりに並んだ。同社の吉田社長は取材に「今日からまた、ゆっくり、しっかり商品製造を行っていきたい」と意気込みを話した。
(9)	種差に食と観光の拠点 「WHARF TANECHI」オープン ACプロモート（八戸） 運営 八戸市で旅行・観光事業を手がける「ACプロモート」が11月11日、種差海岸インフォメーションセンター近くに、ツアー商品や地場産品、お土産品などを販売する「WHARF TANECHI（ワーファタネチ）」をオープンした。約340平方メートルの敷地面積に木造平屋を整備し、店舗には、ツアー商品販売や案内を行うデスクを設置。種差天然芝を望む庭には手軽にバーベキューができるスペースも設けた。農家や漁師、畜産など、地元の生産者との交流を通して食を楽しむ体験型ツアーの造成に取り組む同社は、食と観光をつなぐ拠点として種差海岸を発信していく。
(10)	八戸の食や名所PR VISITはちのへ VISITはちのへは、11月9、10の2日間、八戸市に首都圏の旅行エージェント「JR東日本びゅうツーリズム&セールス（東京）」を招き観光施設などの現地視察会を行った。初日は産直施設「浜市場みなととつ」、櫛引八幡宮や八戸酒類に立ち寄ったほか、中心街では横丁などの街歩きを体験。二日目は市魚菜小売市場や八戸酒造、是川縄文館などを訪れ、参加者は同市の食や歴史などを満喫した。新型コロナウイルスの規制緩和などによる観光需要の回復を踏まえ、八戸圏域の知名度向上や旅行商品造成につなげたい考え。

(11)	<p>八戸にサテライトオフィス 市の誘致事業で初開設</p> <p>システムエンジニア派遣などを手がけるIT企業「MERCIT（メルシット）」（岩手県北上市）は11月14日、八戸市長苗代にサテライトオフィスを設置した。試行的な業務体験の機会を提供する市の「おためしサテライトオフィス誘致事業」を活用した企業が事務所を開設するのは初めて。同誘致事業は、青森県外に本社を置くIT関連企業を対象に2021年度に開始。参加企業の関係者が市内に短期滞在し、仕事や生活環境を体験できる仕組みで、交通費や宿泊費を市が負担する。これまで13社が事業を利用しており、本年度はあと3社が参加予定。</p>
(12)	<p>八戸ニューシティホテル 虎鯖棒すし 全国にファン、通販も盛況</p> <p>八戸ニューシティホテル内にある「魚菜工房 七重」の名物板長・谷口圭介さんが手がける「虎鯖棒すし」は、八戸産や無添加にこだわり塩と酢のみを使用して締める、サバの素材を生かした基本を極めた一品だ。商品化は2008年。当時、八戸にはさばすしの文化はなく、戸惑いはあったものの、首都圏をターゲットにした催事場での販売を始めた。現在も店頭に立ち、PRを続ける谷川板長の熱意は全国に届いている。製造元の八戸ニューシティホテルには虎鯖を求める宿泊客が後を絶たず、通信販売も盛況。長寿グルメ漫画「酒のほそ道」25巻でも紹介されており、全国各地から同作のファンが“聖地巡礼”で訪れている。</p>

【地域】

記事	概要
(13)	<p>東京・上野公園で「青森人の祭典」開催 食や郷土芸能PR</p> <p>青森県の食や観光、文化などをPRする「青森人の祭典」（東京青森県人会主催）が11月11、12日の二日間、東京・上野公園で開催された。会場には、グルメや物販など約40ブースが出店。八戸前沖さばの串焼きには絶えず行列ができたほか、八戸せんべい汁や青森市のラーメンも大好評を博した。また、イベントでは階上町の田代えんぶり組や、津軽三味線奏者のステージなどに大勢の観客が詰めかけ、青森の文化を存分に楽しんだ。</p>
(14)	<p>事業構想大学院大学プログラム 市中心街活性化へ受講者がアイデア</p> <p>社会人向け大学院の事業構想大学院大学（本部・東京）は11月11日、八戸市中心街の活性化をテーマにしたフィールドワークを行った。同大学仙台校が9月に開講した「ネクスト地域イノベーター養成プログラム」の一環。東北エリアで地域課題に向き合い、課題解決に取り組むことができる人材を育成することが目的で、東北や関東などからの受講者が、東北10地域でフィールドワークなどを実施している。今回参加した受講者は、アート以外にも活用されている市美術館と日本酒、サウナを掛け合わせたアイデアや、夜行バスの到着地を館鼻岸壁朝市にし、その後中心街に誘導する観光ルートを考えるなど、中心街の課題や資源を踏まえながらさまざまな新事業のアイデアを提案した。</p>
(15)	<p>全国朝市サミット 来年10月に八戸で開催</p> <p>館鼻岸壁朝市が開かれる八戸市で2024年10月19、20日、全国の朝市団体が集まる「全国朝市サミット」が開催されることが決まった。北海道から九州までの14の朝市が「全国朝市サミット協議会」を構成し、朝市の活性化と情報交換などを目的に1988年からサミットを開催している。同市での開催は2015年に続き2回目で前回の開催では約4万7千人が来場し、十和田、三沢両市内のホテルも満員になったという。サミット当日の朝市は協議会構成団体も出店する予定で、約6万人の集客を見込む。</p>

(16)	<p>八戸特派大使 桂小文治さん 児童に落語の魅力紹介</p> <p>八戸大使ふるさとセミナーが11月15日、八戸市立桔梗野小で開かれ、八戸特派大使で落語家の桂小文治さん（同市出身、東京在住）が、全校児童257人に落語の魅力を伝えた。市は次世代を担う人材の育成を目的に、教育機関の要請に応じて八戸特派大使を派遣している。この日、桂さんは落語の解説をした後、古典落語「転失気」を披露し、巧みな話術で会場を笑いの渦に引き込んだ。</p>
(17)	<p>八戸水産高漁獲のメバチマグロ 都内4店舗で提供</p> <p>青森県立八戸水産高の生徒が研修で漁獲したメバチマグロが11月27日から、西村直剛さん（八戸出身）が都内で経営する青森料理専門居酒屋「ごっつり浅草橋」など4店舗で提供され、来店客が舌鼓を打っている。マグロは、同校の生徒らが今年9月から2カ月以上にわたり、ハワイ北西海域での実習で漁獲し、神奈川県三崎港に水揚げされたもの。西村さんは以前から同校の質の高いマグロに注目しており、今月上旬の入札で約60本、2トン分を競り落とした。刺し身やカツ、ユッケなどで提供しており、売り上げの一部を同校に寄付する。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	<p>「土偶を読むを読む」話題に 是川縄文館学芸員 小久保さんも参加</p> <p>「土偶は植物や貝殻の形をかたどっている」とする独創的な解釈が話題を呼んだ2021年刊行の「土偶を読む」（晶文社）。その内容について検証する「土偶を読むを読む」（文学通信）が注目を集めている。「十分に検証されていない独自の見解が、あたかも事実かのようにつづられている」として、縄文をテーマにしたフリーペーパー「縄文ZINE」編集長の望月昭秀氏が同じ思いを抱いた研究者と共に刊行した。砕けた文章でユニークな例えを交えながら、単なる反論のみにとどまらず、縄文研究の現状や魅力を伝えている。同書掲載の対談には八戸市埋蔵文化センター是川縄文館の小久保拓也学芸員も参加している。</p>
(19)	<p>八戸リレーマラソン つなぐたすき、つながる心</p> <p>学校や職場の仲間てたすきをつなぐ第8回八戸リレーマラソンが11月5日、八戸市東運動公園陸上競技場で開かれた。フル（42.195キロ）3部門、ハーフ（21.0975キロ）4部門に91チーム836人がエントリーした。この日は天候にも恵まれ、絶好のマラソン日和。スタートの合図とともに一斉に駆け出したランナーは、沿道からの盛んな声援を背にして爽やかな秋晴れの下、心地よい風を受けながら快走した。</p>
(20)	<p>八戸・南郷で音楽フェス開催 ブラジル音楽界の巨匠 エルメート来八</p> <p>八戸市南郷文化ホールで11月11日、音楽フェスティバル「FRUE AOMORI2023」が開かれ、メインゲストとして、ブラジル音楽界の巨匠と称されるエルメート・パスコアルさんが出演した。今年で87歳とは思えぬキーボード技術で迫力ある演奏を行い、木製の靴や動物のおもちゃを打楽器に見立てるなどの観客の度肝を抜くパフォーマンスなどを次々と披露し、会場を熱狂させた。当日は、人気シンガー・ソングライター折坂悠太さんも弾き語りを披露。また、ホール前広場では、地元のバンドやDJのライブも実施。飲食店や雑貨店なども出店し、会場内外で終日大きなにぎわいを見せた。</p>

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に!

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただきます。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



ふるさと寄附金の3つの魅力

① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 番沢 啓司 [主事] 前田 哲 [事務員] 浜井 章代

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



送付先

八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。